
臭いにおいの女

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

臭いにおいの女

【著者名】

Z6512J

【作者略】

じほんライス

【あらすじ】

うーむ。ショートコントです。あらすじ、なし。

「なんか臭いわねえ」

「くんくん。くさつ。わかつた！ほら前を！」りん。夜兎がいるわ」

ルーチカは指を指した。

「あいつが来たからよ！」

夜兎は沈んだ表情で席に着く。背中には「あたし、くつせんぐわ女」と書かれた紙が貼られている。

課長が鼻をつまみながら、夜兎に近寄った。

「うひ。くさい。夜兎くん。これ、午前中にやつといてくれたまえ。あふ。くさい！」

課長は夜兎の机の上に書類を置き、走って去った。

夜兎はため息をついた。

ルーチカがキレた。

「夜兎さん！いいかげんにしてちょうどだい！臭くて仕事ができないじゃないの！」

夜兎はうつろな目をしてる。

その時、夜兎はふつと屁をこいてしまった。

「あら？」

ルーチカは目を白黒させている。

「すんげえいい匂い。バラの香り！」

夜兎の屁の匂いとは気づかないルーチカ。

「夜兎。あんた、もう退職しなよ。臭すぎてやだ」

その時、ルーチカも屁をこいてしまった。

しかも、すかしつ屁！

「なんかさらに臭いわねえ」

シーソーが不思議がる。

ルーチカはあわてる。「のままじゃ、あたしが屁をこいたのがバレてしまう。

「夜兎！あんた屁こいたでしょ！」

夜兎はまた屁をこいた。今度はすかしつ屁だ。

「あれええ。またいい匂い。今度はシトラスマントの香りだ」
何はともあれ、職場がいい匂いになってきたので、ルーチカは席に戻った。

「ふん。夜兎さえ辞めてくれれば最高なんだけどな」

夜兎は暗い顔をして、パソコンをかたかた打ち始めた。夜兎の回りに蠅はえが群がってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6512j/>

臭いにおいの女

2010年11月23日09時51分発行